

平成30年3月23日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学  
教授 片渕秀隆

拝啓

行く春や 鳥啼魚の目は泪 元禄2年3月27日、俳人 松尾芭蕉が『おくの細道』の旅で江戸を出立する時に詠んだ句として馴染みの深い17文字です。今年も新たな旅立ちの頃となりました。昨年の初めに移ってきました新臨床研究棟の10階の私の部屋の窓越しにみえる風景も季節とともに変わっていきます。三寒四温を繰り返し春に近づく弥生の風景は、金峰山と花岡山との小高い連山の緑と茶色の山肌が朝日に映えるかと思えば、雲が一気に山裾野まで立ちこめ、麓の市街地にまで深い霧が連なって覆います。

この3月末で、通算5年間にわたり務めさせて頂きました医学部附属病院副院長の大役を無事に終えることができそうです。また、平成17年度から拝命しております地域医療連携センター長も退任致します。本院が特定機能病院としての役割を円滑に果たすべく、平成12年に設置されたこのセンターは、私が着任した頃には殆ど周知されておらず、前方支援や後方支援という言葉さえ一般的ではありませんでした。センターとは名ばかりで、旧外来棟の玄関の隅の小部屋が与えられ、看護師長がひとりMSWがふたりだけでした。しかし、今やこのセンターなくして病院の運営・経営は成り立たない社会に様変わりし、看護師が8人、MSWが5人の構成となり、新外来棟では1階の玄関の右手に拠点としての場を与えて頂きました。がんセンターと熊本県「私のカルテ」がん連携センターと3つのセンターが連動し機能しています。特に、全国的にも注目されています「私のカルテ」は5千人近い患者さんに導入されています。ハード面がようやく充実してきた今こそ、若い世代に柔軟な発想でさらなる展開をして欲しいとここ数年思っていたところ、本年度から副センター長として仲間になった血液内科学の野坂生郷准教授にバトンを渡すことができました。産科・婦人科の両病棟に加え、成育医療部門、総合周産期母子医療センター、熊本県「私のカルテ」がん連携センター、生殖・がん連携センターを引き続き担当し、「病院長特別補佐」という新設の立場も与えられました。

5月2日(水)には教室の歓迎会をホテル日航熊本で予定しております。改めてご案内致しますので、皆様にはご参加下さいますようお願い致します。

敬具